

27 問週全安國全 回一十第 員動總神精民國



安全報國讀本

國民精神總動員 中央聯盟編



特240
53



始



特240
53

安 全 報 國 統 後 の 護 り

報 國 一 心

國民精神總動員
中央聯盟理事 香阪昌康閣下書

厚生次官 廣瀬久忠閣下書

厚生次官 廣瀬久忠閣下書



昌康閣下書

主 唱 厚 生 省 勞 働 局 ・ 工 商 省 鑛 山 局

協 贊 國 民 精 神 總 動 員 中 央 聯 盟

公奉分職 ◊ 國報全安

目次

- 一、國家總力戰に参加する産業戦士……………(三)
 - 二、聖旨を奉體して職分を果し忠誠を盡す道……………(八)
 - 三、強い精神力と嚴たる規律……………(四)
 - 四、すべて安全！私の體はお國の體……………(二)
 - 五、機械にも精神が通ふ……………(二)
 - 六、全体の幸福のために……………(三)
 - 七、名工は無駄を出さぬ……………(三)
 - 八、作業場は總動員の尖兵陣……………(四)
 - 九、緊張の生活に宿る幸福……………(四)
 - 十、善美な言葉で表はせ鋼鐵の意志……………(五)
- 「附」従業員的安全心掛け案内

◊ 力努總 ◊ 和親總 ◊

國家總力戰に参加する 産業戦士

國力の一切を動員して、皇國の使命を達成するためには必要な法律も
 施かれ、國民はその體制に順應する心を固め、舉國一致、世界に冠絶し
 た國民精神の總動員を行ひ、總ての力を發揮するやうに努めねばなりま
 せん。皆様は毎年、安全週間を實行される際、平時より一層上下の一致
 を計り、堅忍持久され、能率増進、無駄の廢除、災害防止、保健衛生に
 心掛け、勤儉貯蓄の美風を養つて來られ、各々の職分に應じて、奉公の
 誠を致された、それを靜かに、省みますれば、支那事變の推移に依り、
 物心兩面の總動員體制が緊要となつて來たので國民は一人残らず、總動
 員に即應せねばならぬのですが、既に皆様は、産業安全の名を掲げて、

雄々しくも十數年以前から、全國民に魁けて、總動員に必要な事柄を卒先躬行して來られたことは、なんたる幸なことであつたでせう。

一般の人々は此際、何から始めたらよいか、今から研究をして居られるのですが。官民協力の下に、皆様が實行された、安全週間の業務は、丁度國家總動員の豫行演習であつたとも云ふことが出來ます。

あの尊い體驗を基礎として一層努められるなれば、産業人として、皇國に盡される功績は、多大でありますと同時に、この輝く使命を果すことのできる、職分を、任務としておられる皆様は、必勝戰に参加した、名譽の産業戰士です。この光榮は日本人として大きな誇りであります。

平戰必勝の構え

近代戰の特長は前戰と銃後が判然としない、即ち戰場といふのはどれ

だけの地域をいふか？、優秀な作戦と進歩した兵器の活動は、所謂第一線の兵士と國內の人々とが、一大兵力となつて事に當り、目的を貫行する舉國總力戰となるのでありますから、平時に於ては、裝備を完成するために、武力、思想、經濟を動員して強化に努め、いざ開戦となつても、ピクともしない國家體制にして置く必要があるのです。結局、戦時と平時の區別がつかなくなり、従つて、戦線の區域も判然しなくなつて來たのであります。戦争になりさうだからかうする、そうして平時はこうして置くといった悠長なことが出來なくなつたので、國家の體制も、平時體制、即、戦時體制といふことになつて來たのであります。

好むも好まぬもない、全世界は正に、戦時的平時、平时的戦時といふ状態である。この大勢に負けないやうに平時必勝の體制を強化して置け

は明日の文化創建、東亞の安定、世界の泰明が生れ出るのではありません。例へて云へば國家といふ「ゴム、まり」があるとしみます、平時は空氣が抜けてベチヤンコにしぼんでゐるが、さあと云ふ時は戰時状態にふくれ上る戰爭がすむと、又、もとの通りに空氣が抜けてしぼんでしまふ、といふ様な藝當はもう出来なくなつた、ふくれたまゝ戰時から平時へ、平時から戰時へと、ころげて行く以外に、強く生きる道がなくなつて來たのであります。要するに、世界を指導する信念を堅持する國家の體制は、これ以外にはないのであります。

日本の場合で云へば、滿洲事變以來が正しくこの戰時的平時、平時の戰時の歴史的時期に入つてゐるのです。然るに人間の悲しさと申しますか、砲聲がやむともう平時になつて、平和が來たと考へたがる。今度の

支那事變にしても、そうであつた、敵都南京が陥落するともうすぐ事變が終り、又もとの平時状態が來るかのやうに考へ、特別な好景氣が來ると云ふ風に思つてゐた人もあつたやうですが、實際は事變の推移に依り長期戰體制になつて、邪惡蔣政權とその關係勢力が壊滅するまでは、五年でも十年でも、



私共が皇國の産業に従事してゐるものが緊張の中にも餘力を持ち、他を抱擁し得るところの實力を涵養するた

めに、百難をも恐れず、積極的に生産力を擴充強化し、富源を開拓して行くことが、時艱克服の大道であり、舉國一體の決意であります。

聖旨を奉體して職分を果し 忠誠を盡す道

稀有の重大時局を切り抜けて、世界の指導的役目を果たすためには、全國民が「日本精神を日常生活化」せねばならぬのであります。これによつて「正義日本の眞意」と「躍進日本の眞の姿」を世界の隅々までも知らせなくてはなりません。この大使命を實踐するためには、總ゆる手段が必となつて來ますが、特に舉國一致、總調和の前には、個人の慾望は抑制できるだけ、差し控えて、消費の節約、職分奉公、勤儉貯蓄を率先して行ふことが、皇國に生を享けた臣民として、當然なことで、他人から

奨められるまでもなく、自發的に之を實行するのが御奉公の道であり、所謂、日本精神を日常生活に活かすといふことが、我等皇民が聖旨を奉體して各々の職分を完うし忠誠を盡す事の出来る道であります。

信行不二のまごころ

日本は必ず勝つ!! 又、必ず勝たねばならぬ!! 之は私共、日本人の確乎不動の信念であります。戦争が何年續かうが、或は又、第二の世界戦争が始まらうが、この信念だけは、全日本人が、必ず堅持せねばならぬのであります。戦に勝つために、臣民として行ふ、日常の事柄について、やゝもすると實行が弛緩する人があるのですが、こゝにいふ人は大言壯語はするが、腹に、不動の信念が無いからです。不動の信念を築きあげる、不退の實行が無いからです、「信行不二」のまごころが無いからです。

今度の事變は、銃劍を以てする戦争が終つても、思想戦や經濟戦や外交戦は、今後益々、複雑となり、激烈となり、深刻となつて行くことを覺悟せねばなりません。

そして一つ間違ふと、幾十萬の將兵、幾百億の國費を犠牲にした、日清日露の戦争、滿洲及び支那事變の勝利を、全く毫無しにする恐れがありますから、軍事、思想、經濟、外交、全部の戦争に勝ち抜かねば、新支那の明朗も日滿支の提携も東洋永遠の平和も絶対に成就しないのであります。こんな重大深刻の意義と使命とを持った戦は、皇國始まつて以來、未だ曾て一度もありません。又、産業人が戦士として参加してゐることを如實に、認識されたことも今度が始めてであります。軍隊だけの戦争でなく、國民全體、國力全部の戦争であります。銃劍だけの戦争でなく、

伸びゆく本日 明けゆく世界

物心一如、靈肉一體の戦争であります。

私共は、決して、浮調子になつてはなりません。全國民は、豕く悲壯な決心で奮ひ起ち、どつしりと腹をすゑて、底力のある働きをせねばなりません。必勝の力は、信行不二のまごころから進み出ることを自覺して、常に反省し、絶えず努力して、その及ばざることを恐れねばなりません。

神國の民は 神の兵である

神意を奉體し、聖戦に従ふて、武力戦に征くものも、産業陣で働くものも、神の近衛兵、即ち神國の神兵であります。

神軍には、神軍たるべき條件があります。汚れたる者、荒みたる者は除かれて、至誠に燃ゆる者のみが選ばれるのです。私共は神

助を仰ぐ前に、先づ神の兵たるの實を擧げるべく努めねばなりません。
至誠は命がけてす。神の兵は、いつでも、「至公無私」命がけてなければなりません。億兆一心固く結んで、現人神たる、大君に、一切を獻げ奉つて、皇國のために盡くすのが神軍です。斃るるも猶 天皇陛下の萬歳を祈り、七生報國を誓ふのが神軍です。神軍たるの誓願なくして、天佑神助の下る善がありません。

神軍たるの實行なくして、皇祖皇宗の御神靈が護り給ふ善がありません。日本必勝の力は神にあり、同時に又、我にあることを忘れてはなりません。無敵皇軍は、海、陸、空を通じて、已に試験済であります。

銃後にある國民は、神の兵としての試験を、之れから受けるのであります。世界を指導し、無敵となる道は、國民全部が、ほんとうの神軍とな

るより外はありません。即ち、一人も残らず、命がけて働いて、働き通す頑張りがあればよいのです。最後まで忍びぬいて弱音を吐かず、不平を云



はず、につこり笑つて働き通す熱意を如實に示す事ができればよいのです。全國民にこの覺悟あり、全國民にこの實行あり、全國民にこの信念あらば如何なる國難も、決して恐るゝに足らぬのです。國民全部が「實踐躬行」の勇士となつて働いてこそ、必勝の榮冠

は、我に輝くのであります。働く、働くといふても、いろ／＼やり方があるので次に述べてあるやうに、肩のこらない話の仕方、皆様と親しくお話

をしたいと思いますから辛棒して終りまで讀んで頂くやうに願ひます。

強い精神力と嚴たる規律

外國の武官が北支の戦線を視察して、ひどく感嘆した話があります。

「日本軍が強いのは、命令がよくゆきわたるからだ。一度び部隊長が命令を下すと、實に迅速に全員にゆきわたつて、直ぐに行動が開始される。まるで、ボタンを一つ押すと瞬間に機械が廻轉するのと同じだ。」

また、こんな事實がたくさんあります。

居庸關の攻撃に、敵の城壁を戦車が登つたといふのです。傾斜がなければいくら戦車でも登りません。然るに、直立したやうな壁を落ちては登り、登つては落ち、柳の下の蛙のやうに根氣よくやつてゐるうちに、と

うく登つてしまつたのであります。これは力學上では説明の出来ない奇蹟的事實ですが、登れといふ命令が一下したら、命令は絶対でありま

すから、理屈もへちまもありません。たゞ突進、實行あるのみ。この精神力は、ついに不可能を征服してしまつたのであります。

日本軍は強い、必ず敵に勝つといふ唯一の原因は、極めて強い精神力と、上官の命令に對して絶対に服従することでありま

定めた規則は諸君の爲

軍隊で規律を守れ！といふ命令は、忠勇無双の光輝ある陛下の軍隊として、國家を護る重責を果さんためでありま

す。工場や、鑛山の規律は、一致協力してその事業の達成、發展を圖ると同時に従業者一同の安全と幸福を増進する目的の下に定められてあるので

一つとして、従業者のためにならぬ規律はないのであります。

仕事の最中に側見、戯れ言をいひ合ふな。と厳しく禁じられてあります。この規律を亂すやうな人は、必ず心に緩みのある人で、失策をしたり、怪我をします。

作業場には、どこでも安全規則が定めてあつて、いろ／＼と掲示されてあります。その掲示された規律をよく守ることが「安全第一」の實踐であります。一切の規律を守ることは、命令に服従することでもあります。素直に命令を受け容れて、それに服従してゐれば、身に不幸はなく、工場の作業は圓滿に順調に進行するのであります。

一步も踏み脱せない天の掟

服従といふと、面白くないやうに聞えるでせうが、この世の中の仕組

みは一切が上と下との関係が成り立つてゐるのであります。いくら自由の平等のといつたところで、上下の関係は絶対に動かさないものであつ

て、上役の命令には、服従しな

ければならないやうに、自然が

つくり上げてゐるのであります

平工員は係長に服従し、係長

は組長に服従し、組長は課長に

服従し、課長は工場長に、工場

長は重役に、重役は社長に服従

しなければなりません。そこで社長は事業の方針を國家の體制に應じてゆかれるやうに種々研究考案して、國策に従がわねばなりません。



一般の家庭を見ると、どうかといへば、各工員は家に歸れば、妻君が服従し、子供が服従するといふやうに、世の中の一切は、ピラミット型（四角で上は尖つて下は大きく擴がつてゐる）になつてゐます。そして、最頂上には長くも天皇陛下が在しまして、絶対の統治をされ給ふのであります。誰がどんな理屈をならべ、どんな不平をいつて上役の命令に反かうとしても、この永遠なる天の掟を一步も踏み脱すことは出来ません。「上役の命令を陛下の命令として、絶対服従する」といふ精神で、堅忍持久、何事も國家のためですから、うんと働いて下さい」といふと、言葉が氣に入らぬとか、入るとか考へる人があるでせうが、もしも、絶対服従が陰氣でいけないなら、「合一」はどうですか。國策に合一して、命令に従はうではありませんか。どんな小さな揭示でも、それが規則となつたら

軍隊式に嚴格に守り、上役の命令は電氣仕掛けのやうに敏感に服従し、實行しやうではありませんか。

明治天皇御製

國をおもふみちにふたつはなかりけり

軍の場にたつもたゝぬも

働きに誇りあれ

規律正しい習慣のついた人の集團は、實に立派なものですし、側の人々に良い感化を與えるものです。又服装の如きでも、同じことです。整つたカーキ色の軍服は勇しい。銃後に控へて、國力戦の第一線に立つみな

さんの作業服は輝しい制服だ。それですから、ダラシのない格好をしてゐては、役目も果されぬし、このために全体の規律が狂つて來ることになります。みなさんは、立派な國力戰の現役兵、第一線の勇士だ。このことだけを頭に入れてゐたら、街を歩くにも、みなさんは颯爽とした氣持になるにちがひない。毎日の工場の働きにも、いやが上に元氣が出て來るにちがひない。つまらぬ不平などはフツ飛んでしまふにちがひない。給料のために働くなぞといふケチな考へは起らないにちがひない。自慢、高慢は猫の糞ほどの値打もないが「俺たちの働きは、東洋平和建設のために、皇猷を翼賛してゐる、のだぞ。」

といふ誇りなら、うんと誇つて下さい。まつたくそれにちがひないのだから。その誇りあつてこそ、みなさんの血は國家のために沸きたつて、

機械の廻る音は愛國行進曲に聞え、打ち振るハンマーの響に武運長久、敵國降伏の調べがあるでせう。

すべて安全！私の體はお國の體

病氣、災害のもととはいへば、何よりも不完全、不健康が第一の原因で不健康は不衛生にはじまります。

「お國の體」であるみなさんの體は、「まづ健康」にして置かなければなりません。大酒、大食や夜ふかしを慎み、食前には手を洗ひ、食前食後には口をすゝいで齒を大切にすること。作業中は充分に注意して怪我などせぬやうにすることなど大切であります。

とかく、不健康であると、身體が充分に働きに役立たないばかりか、精

神までが亂れ勝ちになります。疴癩を起す、不機嫌になる、もの倦くなる
氣ばかり焦る、といふやうな、そうした精神は、「安全」とは反對の「危険」
にばかり近づきたがるものであります。

「すこしも騒がぬ」辨慶

災害の直接原因の多くは「急ぐ」ことであります。が、「急ぐ」やうな心にな
るのは、必ずその原因が不健全な生活にひそんでゐることを忘れては
なりません。萬事に健全な生活をして、沈着な態度で仕事に臨むべきで
あります。手や脚の動作は機敏に動かさなければいけません。それには體
が自由に動くやうに健康體操をしたり、朝早く起きて、冷水磨擦をして、
常に丈夫で、動き易い状態でないといふと不十分です。體を忙しく動かしたか
らとて、心まで動揺させるには及ばぬのです。心は手脚の指揮官です。そ

の指揮官が、うろくくと動揺してばかりゐたらどうなりますか、災害の原



因をつくるのは、實に指揮官であ
る心の動揺にあるのであります。
どんな忙しい場合でも、安宅關
で義經主従が富樫左衛門尉に見破
れやうとした時に、

「この時、辨慶すこしも騒がず」
さらくと勸進帳を読みあげた
といふ。あの沈着な心から起る、早
速の氣轉です。すこしも騒がぬ心
であるなら、急いでうろくしてゐる時よりも、機敏な働きが出来て、絶對

に事故は起しません。

「災害に豫告なし」です。萬一、天災、火災、空襲のあつた場合でも、辨慶のやうであつたら、直ぐに安全の應急處置がとれるのであります。

忙しいくに捉はれるな

「忙しいく」で心ばかり焦ると、足許の穴に氣がつかず落ちたり、轉んだり。後の始末を忘れて作業場の往來の防害をしたり、ちやんと安全な道があるのに、レールの上を歩いたり、機械の上を歩いたり、ベルト・コンベヤーの上に乗つたり飛び越したり、そんなことで失敗した人が随分多いのであります。なほ、不注意は自分一人が怪我をするばかりか、同友の生命まで殺傷することになります。「小事から起る大事」は、決して多勢で起した大事でなく、大概は一人の不注意が原因になります。

せか働に先を心りよ足手

一ケ年の損失約二千數百萬圓以上にもぼる工場の火災や、爆發など、みんな一人の不注意からですが、斯くては、戦時國家に大切な資源を失ふばかりか、親しい同僚の生命までを殺傷するやうなことがあつては、まことに天皇陛下に對し奉つて申譯のない次第と申さなければなりません。

監督の眼を盗んで、隠れて煙草を吸ふやうなことは最も危険であります。危険なばかりか、作業の秩序を亂すことになりますから、國力戦士としては甚だ恥づべき行ひであります。次ぎに注意しなければならぬ點は、電氣の故障や、蒸氣管、瓦斯管などの漏れを發見した時です。その時は、直ぐにその係か上役に報告して下さい。アセチレン發生器や壓搾空氣の取扱ひは充分に注意しない

と、いつドカンと来るかわかりません。殊に粉塵は非常な爆發力をもつてゐますから、粉塵の多いところでは、火花や裸火に氣をつけないと危険であります。爆發性料品の貯藏とか、使用には規則を守つて周到な注意をはらふことは勿論、油脂、引火性料品の貯藏所や、取扱場では絶対に火氣嚴禁でありますから、ランプの使用は、電燈か携帯用電燈または帽子に取つけた電燈が安全であります。

荒木又右衛門を學べ

荒木又右衛門が三十人を斬りまくつたとか、國定忠治が三十五人をみな殺しにしたとか、講談などで聴くと、えらく威勢のよい場面です。一體、一人でそんなに斬れるものかどうか。疑問に思ふ人があります。しかし、斬る本人はそれほど大して忙しくないさうであります。

「如何に多勢の敵に圍まれやうとも、斬る時は一人を斬るのだ。一時に五人も六人も斬れるものではないから、さして忙しい話ではない。」

と、荒木又右衛門が門弟に語つたといふことであります。この話は、多忙から来る災害を防止する安全の要諦であります。

まづ、「忙しい」と絶対に思はぬことです。どんなに仕事が多く、追ひかけられても、「忙しい忙しい」と思ふと、心までが「忙しい」に巻きこまれてつい狼狽勝ちになつて、昂奮し動搖して來ます。が、どんな忙しい場合でも、腕は二本で、その時その時で片づける仕事といふのは、いつも一つきりなのです。「瞬間、瞬間に常に一つを片づけるのだ」と思つたら、大して忙しいとは思はないでせう。

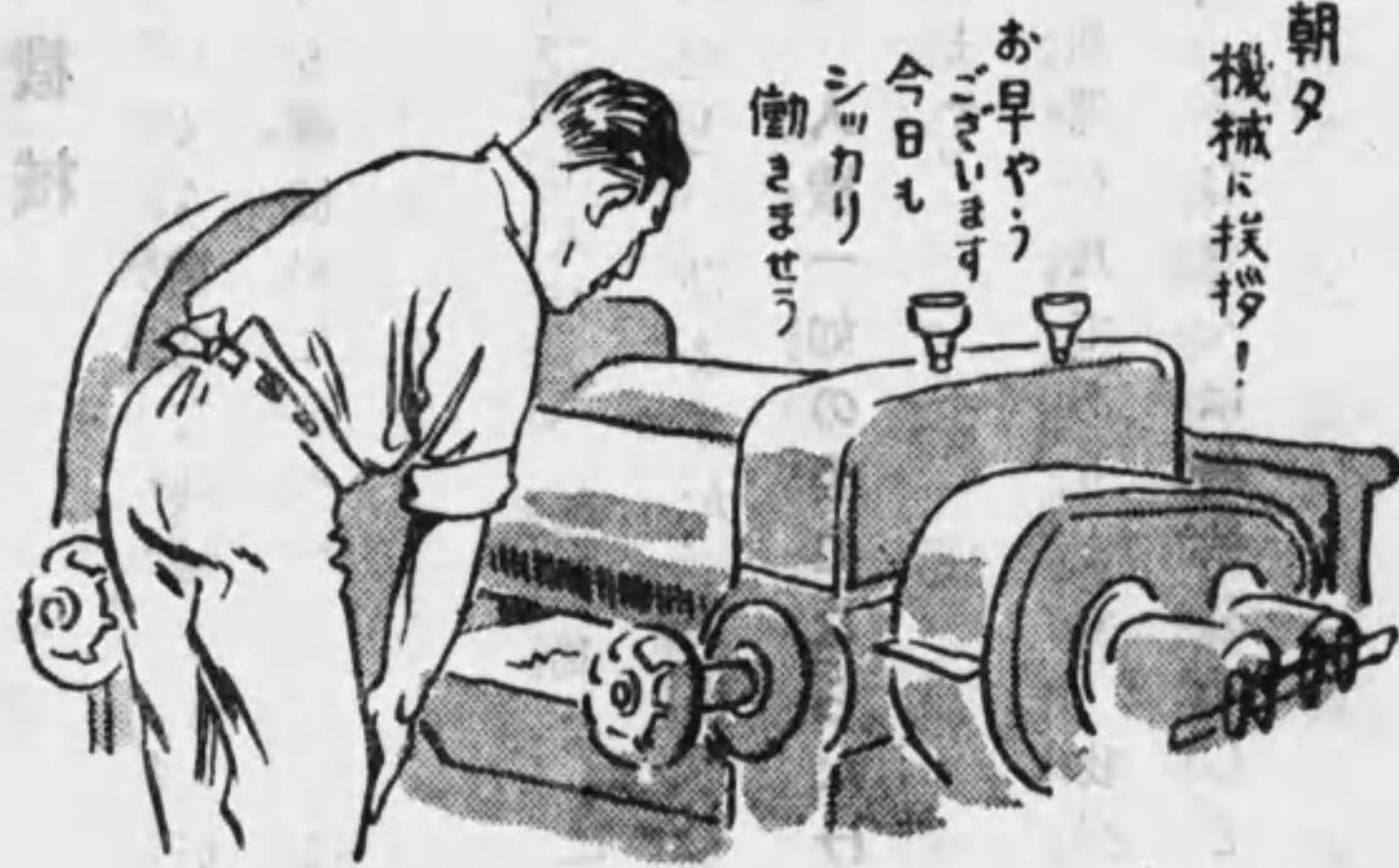
眼の前にある一つを、眞心をこめて、注意深く片づければそれでよろ

しい。一つをやつてゐる時は一つの仕事なのです。「あとには一體幾つあるのだらう」とか、「もう幾つ片づけたらう」なぞとか、そんな役にたゝぬことを考へる必要はありません。最初からきめた仕事の段取の順序でやればよいのです。「常に俺は一つの仕事をしてゐるのだ」といふ荒木又右衛門の心の境地は、作業の安全にそのまゝ應用の出来る心得であります。

機械にも精神が通ふ

「機械にも精神が通ふつて、そんな馬鹿なことが……」などと笑つてはいけません。機械にも立派に扱ふ者の精神が通ふものです。或る工場で、特別に調子よく廻轉する機械がありました。他の機械と較べて特製といふわけでなし、高級機でもなく、普通の機械なのにどう

して、そんなによく廻轉するのかと調べて見たら、受持のA君といふ工員が非常に作業に真面目な人で、朝は早く出勤して、「お早よう。今日も一つ頼みます」と機械に挨拶して、叮嚀に故障の有無を点検し、歸りにはまた叮嚀に掃除して「いや御苦勞さん。お休み！」と、いつてカヴァーをかけてやるということでした。そうした人の感謝と愛護の心といふものは、必ず無心の機械にも通じるものであります。



兵士に兵器 諸君に機械

工業品は機械がつくるか、人がつくるか、いくら精巧な機械でも人がなければ動きません。また、いくら人があっても機械がなかつたらどうにもなりません。

馬術の名人人間垣平九郎が、馬を走らせると「鞍上人なく、鞍下馬なし」で、馬と人が一致して、人馬一如の姿となつたといひますが、工場でも人と機械とが離れなくてはなりません。人機一如の姿にならなければ、ほんとうの作業は出来ないものであります。

工員諸君を出征兵士とすれば、機械は正に兵器か馬であります。我が忠愛な兵士が馬を我が兒のやうに愛する如く、みなさんは機械を愛してやらなければなりません。

その機械も、たゞ單に會社の機械だと思ふことなく、我が國の國力の一部分であることを深く認識すべきであります。屑鐵や銑鐵、鑄塊を一年に二億三千三百萬圓も外國から買はなければならぬほど、鐵鋼の不足



仕事の前には必ず安全

機械し
工具し
ツケし

な我が國でつくつたものゝうちの一臺なので、心から大切に扱つて、長期戦に勝たねばならぬといふみなさんの熱意をもつて、一層よく機械を廻轉させやうではありませんか。必ず、みなさんの精神は機械にも通じるのですから……。

朝出勤したら、必ず前に述べたA君の心掛を學んで、機械をよく見てやつて下さい。検査を怠つて失策した例はすぶんで、温順な馬でも狂ひ出すと人を蹄にかけるやうに、機械で

も、調子のよい時は面白いやうに廻轉してくれませんが、注意を怠つて狂

はしたら大變です。自分が怪我をするばかりでなく、同僚までをも傷け

ます。また、工具でも同じで手入を怠つたら、災害の原因になります。

この「怠る」といふことは、つまり機械なり工具なりを愛してやらないこ

とで「愛してくれなければ一つ怒つてやらうか」と、そこで機械、工具が

調子を狂はせたり、毀れたりするのです。

一旦、自分が受持つた以上は、機械も工具も自分のために働いてくれ

るのですから、自分の手脚も同様です。自分の手脚なら疎末にしたり虐

待は出来ません。機械が廻つてゐる時は、自分の手脚が動いてゐると思つて、熱心に注

意して下さい。仕事最中に側見をしたり、冗談をいつたりすれば、それだ

け作業がお留守になるばかりか、機械や工具の調子の狂ひや、破

損を發見することが出来ません。そして、思はぬ災害を招きます

から、作業中は、戦線の兵士が、敵を撃つ時と同じ氣持で、全身全

靈を打ちこんで下さい。……戦地で勇躍されてゐる將兵を偲びつゝ

工場には大小があり、働く人の數もそれ／＼ちがふでせうが、

大なり小なり、人々が一致し協力しなければ、完全に作業は出来

ません。それはちやうど人間の體のやうなもので、齒が一本痛ん

でも、指が一本傷ついても、足の小指の爪が一つ剝れても、體全体

の調子に影響するやうに、同僚の一人が不幸になるとか、怪我を

誠忠の等我が全完と全安

全体の幸福のために

するとか、不心得であるとかすれば集團全体に響くのであります。だから、お互は齒であり、指であると思つて、全体のために善事は率先して行ひませう。善事の率先實行は、全体の働きを安全に、明朗に進めてゆく根本なのであります。

近頃全体主義といふ言葉が使はれてゐます。その意味は、いままでこの國も個人主義的で、自分さへよければよいといふ、利己的で國家全体の幸福といふことを、餘り、考へなかつたのであります。それは間違ひである。個人の利益を後にして、國家全体の利益を先に考へてこそ、やがて個人も幸福になるといふことであります。

工場でも、全体主義的に考へねばなりません。「自分さへよければ」といふ考へを捨て、**「工場全体のため」**を思つて、同僚のために善事だ、と

思つたことは、思つた瞬間に行はうではありませんか。

善事を行ふは易い

善事といふと、何か特別のことでもあるかのやうに思ふでせうが、善事は極めて些細なことからはじまります。通路に落ちてゐる針一本、屑布一切を拾つて箱に入れるのも善事です。うっかりして、危険な場所にある、同僚に、注意をしてやることも善事です。朝寝坊の同僚の家を毎朝起してやるのも善事です。善事の實踐躬行こそは、五十回百回の懇親會にもまさる、心底からの懇親の現れであります。懇親會といふと



喜び勇んで定刻前に繰り込むやうな人が、通路に横はつてゐる箱一つ取片づけやうとしない、などといふのは凡そ間違つた話であります。すべて同僚のために、迷惑のかゝらぬやう、危険のないやうに、といふ心掛けがほんとうの懇親の情であることを知つて、率先！實行して下さい。

資源の愛護 名工は無駄を出さぬ

何事に依らず、一人前の仕事師といふものは、高價な良い材料をつかふばかりが腕前でなく、材料のことごとくを生かして、決して無駄を出さぬことが名人の名人たるるところとされてゐます。

「無駄を省け」といふと、とかく、「ケチなことをいふな」とか「どうも、重箱の隅を揚子ではじくるやうに、八釜しくて困る」とか、不平らしいこ

とをいふ人がありますが、そんなことを注意されるまでもなく、時間や、作業の材料に、無駄を出さず、萬一出た無駄は直ちに生かして使ふことが、日本の産業勤勞者として、名人になる道であります。

これは、何時如何なる時にも動かぬ眞理であります。殊に、戦時日本にとつて無駄を排除することは、資源の愛護と天物敬愛を意味する重要なことなのであります。

無駄征伐 国力強化

まづ第一に、病氣や災難は人生にとつて無駄なことでもあります。病氣をすれば自分が苦しみ、醫藥代を費ひ、工場を休まなければなりません。

この多忙な時代に一日の缺勤は國家に對する奉公の缺勤になります。

災難で氣力が衰へ、意氣消沈して作業も手につかぬ、などといふのも

國家に對して、怠業をすることになりますから申譯ないことであります。生活を正しくして毎日を喜んで働けば、健康で病氣にならぬ。諸事に注意深く生活すれば災難の防止は出来ます。

萬一、それでも病氣になつたり、災難に逢つたら、これは自分のいたらぬところからであると靜に内省して、再びかうした病氣、災難に逢はぬやう、自分の行ひを一層正しくすることです。これが、病氣災難といふ無駄を、自分のために生かして使ふ方法であつて、「人間としての名人」になる道であります。

次に、家庭生活の無駄ですが、見得や外聞に捉はれることなく、眞面目なつゝましい生活をして忙しい時の収入増加に浮かされず貯金をし愛國公債を買ふこと、これは「家庭人としての名人」になる道であります。

「物」にも動員令

楠正成が七生報國を誓つて、湊川で討死したことはみなさん御承知で



せう。しかし、世の中に現れた一切の「物といふ物」が、七生報國をしてゐるといふことには氣がつかれないでせう。地上の一切の「物」は無心ですが、ことごとく生命をもつてゐて生きかはり死にかはり、七度八度と人のために役立つのであります。

例へば、一枚のワイシャツです。それが破れて着られなくなれば、ワイシャツとしての生命は終わりますが、縫ひ縮められて子供のブラウスと

廢物も生れつて七生報國

かエプロンとして生きかかります。さて、そのブラウスなりエプロンが破れて生命を終つたら、雑巾として新しい生命をもちます。その雑巾の生命が終つたら、きれいに洗つて古物屋の手に渡して下さい。

今度は製紙原料となり紙として再びこの世に再生します。紙となるばかりか、綿火薬ともなれば、セルロイドともなるし、ボロのまゝなら、みなさんの使ふ拭布用になつて働きます。しかも、機械拭布用としての木綿ボロが年に約一千万圓も海外に賣り出されるといふから大したもののでせう。木綿布れ一つでも「物」の生命を働かすのであります。

鐵の一片も國防資源

みなさんが工場で使ふ原料をはじめ、機械、工具、附屬品、油類その他一切の「物」は、みな生命をもつてゐて人のために働くのでありますから

努めて「物」の壽命を長くしてやり、何度でも廻りやすいやうに注意して「物」の生命を絶つことのないやう深く注意しませう。

「物」の生命を大切にするといふことは、人間として、またねばならぬ美しい情愛であります。同時に資源の乏しい日本にとつて、わけて長期戦時代に於ける日本人の義務として、「物」を大切にしなければなりません。

機械、工具その他に使ふ鐵類は、我が國の生産だけで間に合はず昭和十一年には二億三千万圓も買ひ入れたのです。この一事だけでも、機械、材料、原料を問はず、鐵類は一片のブリキ、一本の古釘でも大切にすべきことがおわかりと思ひます。

「石油は戰の血なり」といはれる、油はその九割まで外國から買

ひ入れてゐるのです。みなさんの使ふ油類は、みな戦争の血なのでありますから、一滴と雖も無駄にしてはなりません。

無駄は何處からでも征伐できます。便利な風呂敷包が日本にあるのに流行とは云へ、革が軍需品として不足してゐるのに、何が入つてゐるのかしらぬが、平気で、猫も杓子も、革製の手携げカバンを小脇に抱えて歩いてござるが、日本獨特のフロシキは大を兼ね、小をも兼ねる、至極、便利なものです、これなども、必要のない人は早速！改良すべきであります。

「一生安全」の優勝旗

「もとは、會社、工場の物だから」かまふものかといふ氣持で、物の無駄をして平氣でゐる人があつたやうですが、超非常時の戦時時代では冗談にも、そんなことは赦されないであります。

會社、工場の物は國家の物で、國家の物の無駄は戦争の結果にまで影響するといふ、とても大きい意味をもつてゐるのですから、銃後の戦士たるみなさんは、この點にくれぐれも注意して下さい。かくあつてこそ「立派な國民」であり、産業勤勞人としての名工であるわけであります。

一切の無駄を省くこと、これを実行すれば、家にあつては名主人となり、工場にあつては名工人となり、その合計は「忠誠なる國民」となり、求めなくとも、自然に神から健康、貯蓄の賞品を與へられ、生活の向上といふ銀杯や、「一生安全」といふ優勝旗を與へられる事は確實であります。

作業場は總動員の尖兵陣

今！皇國は青年日本として第一歩を踏出したのであります。激潮とし

て、意氣高く、前進！躍進を續けてゐるのであります。この總体の雄大さも、一人々々が青年日本を背負つてゐるといふ、實行力と信念の顯はれの結合であります。

昔、ドイツの宰相ビスマークが、ポーランドを訪問した時に

「汝の國の青年を示せ、われ汝の國の運命をトせん」

といつたといふ話がありますが、心ある人は、一目見れば、その國の強弱と將來が判断できるものであります。

精悍な顔たち、規律正しき動作、整つた軍服で、堂々と行進する皇國の軍隊を見て……「なるほど日本軍は強い……」と、外國武官が感心したさうであります。イヤ、軍隊ばかりではありません。一國の運命は、産業の第一戦に立つ勤勞者諸君の姿を見ただけでも、立派に占ふことが出来る。

作業場はきれいに清掃されて塵一本も落ちてゐない。工具、材料はちやんとあるべきところに整理されてある。働く人達の服装はいつもきちんとして、仕事に合ふ制服で、卸一つ外れてゐない。そしてその顔つきが眞面目で、緊張してゐる。全体に流れる空氣は平靜である。と、かうあつてこそ、日本の軍隊と併行してお國のために働く工場であり、國家を隆昌にする産業人の精神の流露なのであります。これと反對の姿を考へて見ませう。服装は垢だらけ、鍵裂きほころびは切れ放題、



細かい注意
整理整頓と
廃品處理が
国力増大!!

帽子を横つちよにかぶり、履物はふしだらなものを着用する。冗談、無駄口でガヤ／＼と騒々しい。機械の手入は悪いし、通路には工具や材料が散らばり、水や油が滴れてゐる。働く人は狼狽ふためいて、油で辻つたり、物に躓いたり、機械や材料の上を飛び越へたり、とても危険で見てもはるれない。といふやうな、これは、日本の工場ではないでせう。どうも支那の工場らしいです。

だらしのある生活をせよ

歸するところはだらしのない姿は亡國の表徴であり、だらしのある張り切つた姿は興隆の表徴だといへるのであります。

「だらしのない女房をもつたら一生の不作だ」と、妻にしてからがさうです。苟も第一戦に働く人がだらしがなかつたら、その工場は繁榮する

わけはなく、その中に働く人自身が、幸福に見舞はれる筈もなく、大にしては國家が興隆する道理はありません。

ギリシャの亡んだのも、國民の寝坊、夜ふかしが原因だといはれます。それに反して、興隆して行く民族は早起きであるといはれます。生活が張り切つてゐないから寝坊をし、だらしなく夜ふかしをするのです。朝早く起きるといふことは緊張した生活の第一の表れであり、さうした人といふものは萬事にだらしのないことをせぬものであります。

朝は早く起きて、まづ太陽を拜し

「今日一日をどうぞ國家のために働かして下さい。これから産業戦線にたちます」と念じ、出勤の前には鏡に向つて服装を點檢し、明朗なそして、清澄な氣持で家を出て下さい。さうすれば、工場に入つても同輩と

元氣よく挨拶をかわして清々しい氣持になれるから、必ず緊張した働きが出来て来るでせう。

自分の身のまはりには勿論、目の觸れるもの一切を整頓する氣持になるでせう。「整頓、整理は先づ自身の心から」であります。

緊張の生活に宿る幸福

體は健康になつて、貯金は出来て、一家は圓滿になり、腕前はぐんぐんあがつて、位置も昇り、収入も増す。『下手な藥の能書のやうに、そんなに四方八方うまくゆくものか、第一、さうなるのには大變な苦勞をしなければならぬだらう』かう頭から、大專業のやうに思ひ込む人もあるでせうが、決してさうではありません。一つのことをちやんと實行すれ

早起寢適度の運動

ば、機械の動力が動く、齒車やベルトで方々の車が廻轉するやうに、健康、貯金、圓滿、上達、向上の車がぐるぐると面白く動き出すのであります。

まづ、「長期戦時代に於ける銃後の勇士だ」と確く自覺することです。この自覺が出来たら、もう動力は動き出したも同様であります。銃後の勇士は朝寢坊なんぞしません。

毎朝身心を清め神様を拜み、清淨な大氣を呼吸して、適度の運動をすれば、朝飯も美味く喰べられ、工場や職場に行く足どりも軽く、口笛の一つも吹きたいやうな明朗な氣持になつて、同僚に會つてもにこくと「やアお早やう」と元氣よく挨拶が出来ませうかうした人の服装は、見ても氣持のよいほど整つてゐます。

作業についたら、緊張して一心に作業に没頭しながらも、頭が澄んで
ゐて八方に気が配られ、しかも沈着で、身邊は整頓してゐるから、思はぬ
怪我などはまづしないでせうし、能率もぐんぐん上るし、善行率先主義だ
から同僚からは敬愛されるでせう。

もちろん、銃後の勇士は無駄づかひや時間の浪費はしません。作業が
終つたら速足て家に歸り、楽しい晩のお膳に夫婦笑顔で向ふでせう。寄
宿生活の人は行事をすませてから、修養、鍛練に努めるでせう。朝が早い
から、夜ふかしをしやうにも眠くなつて出来ません。自然と早く床につ
き、充分の睡眠がとれますから、一日の疲勞はすつかり恢復して、また元
氣よく楽しい明日といふ日を迎へることが出来るのです。

かうした生活は、いつも氣持が爽かで、来る日来る日が楽しく、思はず

天に向つて、自分に與へられた一日を感謝したくなるものであります。
と、細かに書き出したら際限はありませんが、この生活の實行からは、願

はなくても健康な肉体を與へ
られ、貯金も出来、一家は圓
満になり、腕前は上達するに
決つてゐます。

生活に無理をするな

金を追ふうちは金は蓄らぬ
金に追はれるやうになれ。

…「これが金の貯る秘訣だ」

と先賢が後世の人のために、云ひ残しておられます。「さア貯めやうく」



全家人で
休日の
お楽しみ
大氣に接する
健康日本

の一心で、食ふものも食はず、衣る物も衣ず、義理も交際もせず、無理して貯めた金は、どこかで散つてしまひます。

節約流行りだからとて、營養のない安い食物を喰べたのでは、かへつて營養不良で病氣になります。食物は贅澤に流れぬ程度で収入相應の物を喰べ、衣服も石鹼代や手数を吝まず、よく洗ひ、修繕をして、整つた服装をしませう。身体に故障があつたら躊躇なく醫者にもかゝりませう。

また、たまの休みには武道の試合にも、野球にも、ピクニックにも行きませう。庭の草花などの手入をして適度の慰安と娛樂もとりませう。いくら緊張緊張といつても、粗衣粗食、寝る間も寝ずに、娛樂もとらずにゐるといふやうな、そんな窮屈な生活をせよといふのではありません。すべては分に應じ、程を重んじて、無理のない生活をしてゐれば、それ

が自ら幸福の道、平和の道、向上の道に通じて、一家は安全の世界に、人生を樂しみ、皇國に貢献することが出来るのであります。

曉に輝く護國の貯金

規律正しく、分相應の生活をするために、それ／＼計畫を樹て、暮してゐれば、爪に火をともしやうな、各畜をしなくともお金は自然に浮くものですが、いまゝでは、それが貯金になつて、萬一の場合にも困らず、一家が安泰である。といふだけの意味でありましたが、長期戦時代の現在では、「貯金」が直接國家のお役に立つといふ大きな意味を加へて來たことを忘れてはなりません。

支那事變が勃發すると間もなく、二十五億圓もの戦費が計上され、更に四十八億圓も追加され、合計七十三億圓といふ龐大な金を要すること

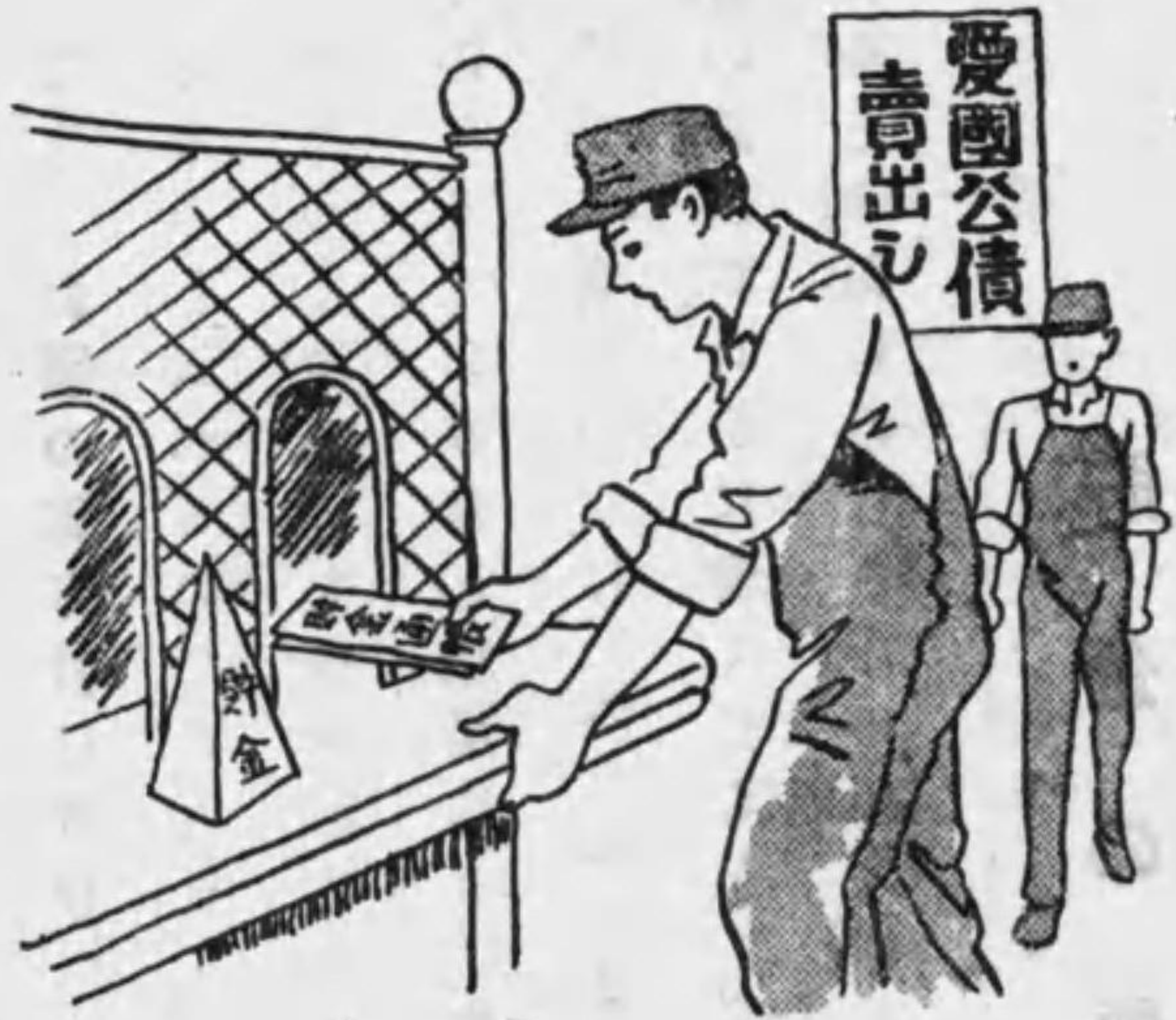
になりました。これから先、どれだけ要つても、国民の總力で負擔して行くところに、強味があるのであります。

今度の事變費は、その九割は公債で賄ふことになつてゐるのです。政府は公債を賣り出す。國民はそれを買ふ、その代金が戦費として使はれます。使はれる金の一部は、みなさんの給料、賃銀となつて、みなさんの懐中に入る。そこで、その金を無駄遣ひせず貯めて置いてまた公債を買へば、その金が再び戦費となつて國家のために働き、ぐる／＼廻りをしてみなさんの懐中に入つて來るのであります。

郵便貯金なら、その金が大藏省の預金部へ廻り、預金部の手で公債が買はれ、銀行に預ければ銀行の手で買はれます。

家庭にあつても、工場にあつても、無駄をせぬ生活、消費節約の生活を

すれば、我が國の資源を愛護し、同時に外國からの輸入超過を防いで産業を發達させ、その上に、手に残る金は國家のお役にたつ、そればかりでなく、貯金や公債には利子がつき、急な場合にはいつでも金に代るのでありますから、貯金の實行こそは、國家萬全の基、一家安全の根本であるといふことが出来るのであります。



緊張し、「勝つて兜の緒をしめよ」といふことをシツカリ胸に抱いて、之

夢々浮いた心になどなつてはならぬ戦に勝つても、驕にあるやうに、一層

れを實行し、家庭の人々は「勝手、家計のムダ締めよ」これを怠らなかつたなら、**お國の御方針に従ひ**、臣民としての實踐を生活の上に表はしてゐるものと云へるのであります。

灼けつく沙漠にも綠蔭がある。戦時日本にも、この本を讀んで實行するみなさんの家庭と職場にも、**使命達成の實が結ぶ**。

やがて東洋の空に、大日本大勝利！世界を指導する安定勢力！建設成就の鐘が高らかに響くだらう！あゝその時に、愛國公債を手にして、安全と幸福にみなさんの顔は輝くにちがひない。



貯金の要領

一、必ず出来るといふ信念を持つ事。

- 二、餘分の収入を考へるよりも無駄使ひをせぬ事。
- 三、少額づつでも毎月實行する事。
- 四、剩つた金の貯金よりも天引貯金が宜しい。
- 五、貯金は當てにしないこと。
- 六、利息がよくて確實な處へ。
- 七、高利に目をくれて失敗しないやう。
- 八、一時に多く積んで苦しむと續かない。
- 九、決して貯金の有る振りをしてはならぬ。
- 十、無暗に拂ひ戻す習慣をつけぬ事。
- 十一、拂ひ戻したら、必ず補つて置く事。
- 十二、貯金が出来たら愛國公債に振替ませう。

人格と熱と實力で築け 興隆日本

東に日本、西に獨伊の盟邦が、巍然！起ち上つて、邪を正に直し、明日の新文化を建設する使命を、貫き通すために、高い、尊い、人格と、熱血、鐵火の勢ひをもつて、今！新らしい歴史を築いてゐるのであります。

この眞只中で、尊い職分を盡してゐる産業人は、眞想一番！この眞意を體得して、青年の國日本の意氣を、日常の動きに顯はし、又、自分の生活に活氣を吹き込むならば「我等、國と共に行く」といふ殉國の誠を具現してゐることを實感されるやうになりますのであります。

言葉の國、神國
日本の民は世界に率先して

善美な言葉で表はせ 鋼鐵の意志

又、話が堅苦しくなりますが、是非實行して頂きたい一念から申し上

げます。所期の目的を貫行する大使命を背負ふて、起つてゐる、我等皇國産業人は、世界各国人の環視の中で道義文化の建設の行に従事してゐるのでありますから、何事によらず、萬國に範を垂れることを實行せねばなりません。

例へば、一番やり易いことで、大切なことは私共が日常つかつてゐる言葉であります、言葉の改善！善い美しい言葉で魂が通じる言葉の完成先づ、これから始めるやうに努めることを提唱したのであります。

最早、日本の勤勞者は「おれ、われ」といふゾンザイな言葉を使つてゐた時代とは異がつて、今日では世界を雄飛する物資を作るために、進歩した科學の上になつて、智識と技術とを併せて用ひ、それに冠絶した精神を、吹き込んで行かうとする時機になつて來たのです。

言葉使ひによつて人柄が解るとまで云はれてゐますやうに、日本を代表する品物を作る産業人が、今もつて、汚たない言葉を使ふといふことは、國の恥であると思つたのであります。

言葉の使ひ方一つで、争ひごとが起きたり、思はぬ誤解をうけることもあります。善美な言葉を用ひますと、自然、心に慎しみが出来て、何事によらず、叮嚀になりますから、物事に落度がなくなり、禍害からも免れることができると思つて申すことができます。

然し、實際に當つて、今日から言葉を改めやうとしても、中々容易なことではないが、これを意志の力で押し通すだけの人でないと、稀有の大時局を擔當してゐる人とは謂えぬし、銃後の務めを完全に行つてゐるとは云えぬのであります。實行出来ない人は「人を敬する」ことを工夫す

化强身心の人業産 / 母の産生

る心が足らぬ結果から出た心の持主です。即ち心の中に慎しみなく、物事を叮嚀にする用意が無いからです。

我國は神代より、「善美な言葉の國」であります。

朝夕、神を通じて魂を表明する習はしの行をして、その清明心をもつて、一日の務めをさせていたゞくのであります。世の中が移り變つてだんだんゾンザイな言葉や、汚ないものゝ言ひ表し方が増えたので、識らず知らず、引づられて昨日までのやうになつたのであります。今日は、舉國一致、重大な時艱を克服し、其の上、全世界を指導する任務を課せられてゐる日本でありますから、飄然！悟つて何事によらず、皇國の美點を發揮することに、全魂全靈を傾注して行かねば、眞に奉公の誠を致しておるとは申

されないのであります。どうか、皆様の同輩の間で、全作業場で、家庭でこの難事業を始めて下さい、言葉の善美が完成すれば、其處には、言語や動作に傲慢不遜が無くなり、總親和、總努力の實が擧がり、自然！作業方法の改善や、適切な考案の如きもスラ〜と出来るし、怪我、病氣といふやうなものも絶滅することが容易になります。

清明な真心をもつて、善事をやり通す。その心が、聖ければ聖いだけ、「祈る」といふ心境になります。身を清め心を正して祈ることは、大きな努力で、大事業であります。が併し、やり抜かねばなりません。

神國日本の使命を貫行し善美、和樂を成就するの道は、大神の御稜威を感受して、和魂を顯現すやうに、日夜、祈り、努力を續け、職分奉公を致すことが、まことの道であつて安全への道であります。

従業員的安全心掛け案内

- 一、毎朝、遙拜をしてから、祖先の靈を拜み、「安全頌」を朗誦するやうにも努めること。
- 二、服装は體軀に合つたものを着用し不必要な物は身につけぬこと。油や其の他で汚れた物は洗濯する事。
- 三、原動機や機械設備、工具等は作業に就く前に必ず點検すること。
- 四、機械の音や調子に注意し不調を發見した時には直ぐ責任者に報告すること。
- 五、機械の掃除や注油、修繕、検査等は必ず運転を停止してから行ふこと。
- 六、危険標示や危険信號は良く守ること。
- 七、襪や油布、紙屑等は可燃性の容器に仕舞へず、溜りに火氣を使はないこと。特に喫煙は所定の所でのむこと。
- 九、常に場内の清掃や原料、製品、屑、工具等の

- 一、就業時間を厳守して健康に注意し無理な労働をしないこと。又休憩時には充分に外氣に服れ日光に浴びて疲労の回復を図ること。
- 一、終業には良く跡片付をし特に火氣の始末を厳重にしてから退場すること。
- 一、家庭に在つては節制を慎しみ特に休日には充分休養して明日の精進への氣力を養ふこと。
- 一、機械設備其の他危険な箇所に取付けた安全装置例へば柵欄、被覆、訓帶受等は絶対に取除かぬ事

- 一五、運轉中に調帯の掛け外しをせないこと。
- 一六、起重機の下で働く時には其の運行に氣を配る事
- 一七、薄い着物を着てゐる時や體の濡れてゐる時には特に感電の危険があるから氣を付けること。
- 一八、近路でも危険な所を通らず定まつた通路を歩け
- 一九、踏き又は踏み抜きをせぬ様に足元に氣を配る事
- 二〇、構内の汽車や自動車、トロの運行に注意する事
- 二一、重量物の運搬又は取扱には特に氣をつける事
- 二二、共同作業は特に連絡を執りつゝお互に氣を付けること。
- 二三、危険有害料品の性質や取扱方は正しく覚えよ
- 二四、危険有害料品は衝撃、顛倒若は溢漏等のことのない様に丁寧に取扱ふこと。
- 二五、貯藏中の危険物品にはその包装や容器の破損に注意し壓縮瓦斯、液化瓦斯は日光の直射を避ける事
- 二六、危険有害料品は必要量以上に作業場に搬入むな

- 二七、引火性、發火性料品を取扱ふ場所では特に火氣や火花に注意すること、又その蒸氣は室内に籠らぬ様に換氣を良くすること。
- 二八、安全瓣、安全器、其の他の安全装置は常に有効に作動する様検査と注意を怠らぬこと。
- 二九、有害瓦斯や蒸氣の發散する作業場では必ずマスク其の他適當な保護具を用ふること。
- 三〇、熔接、熔爐等の作業者は必ず保護眼鏡を使へ
- 三一、女子及年少者即ち保護職工は運轉中の機械の油差や掃除をせぬこと。
- 三二、特に女子は毛髪を亂さない様にし帽子や作業服を正しく着用すること。
- 三三、口で織機の杼から緒を吸取らないこと。
- 三四、薬品の飛沫や熱湯を浴びぬ様に注意すること。
- 三五、脱水機は品物が平均する様に入れること、尚始動や制動は急激に掛けぬこと。

職分奉公

銃後の固め

安全頌

大徳を大地に受け、肉身を父母に嗣ぐ。萬世一系の
天子に在り、秀麗の山河水へに存す。我等此の神洲に生を受け、
體健かに氣澄みて、今日も亦生産の業に従ふ。
太陽は種子として天に輝き、平蕪は黄々として胸襟に燃ゆ。皇國
産業の興隆は、かかつて我等の双肩にあり。炎熱せず、严寒地と
す、力を協せて、産業立國の大道に精進せむ。
病める人、傷ける友を思へば、涸渇として働き得る身の何ぞ幸な
る。一時の油断は怨にして身を毀り人を傷く。切々の注意、念々の
緊張、安全第一こそ、實に我等の信條なれ。
父母あり我等の安らげきを念じ、兒女あり我等の恙なきを持つ。
國安かれ、民安かれと願ひ給ふ、大脚心の運きを思へば、いかでか
この身を不慮の災禍に招ふべき。希くば身心とす、壯健にして
強々祖國の業にいとまじむことを。
いでや、塵み霞みて新らなむ。天地神明も照覽あれ。

終